

## 中野市男女共同参画審議会会議録

- I 日 時 平成23年11月10日（木） 午後2時～午後3時30分
- II 場 所 中野市人権センター 会議室1
- III 出席者 （審議会委員） 城本早月 涌井純生 川久保あけみ 柴垣顯郎  
工藤二六子 花石常子 町田久美子 国津かおり  
（市）竹内くらしと文化部長 佐藤男女共同参画推進室長 山崎推進係長  
欠席委員 小橋要 上野善久 森田敏男
- 1 開 会 進行 佐藤男女共同参画室長
- 2 あいさつ 城本会長 竹内くらしと文化部長
- 3 会議事項 議長一城本会長

**会長** 自宅審議いただいた計画案について、ご質問ご意見をお寄せいただきたいと思えます。

**委員** 計画の策定の目的の最後、表現が「男女共同参画社会の実現により、中野市が活力に満ちた都市として、更に発展することを目指します。」は男女共同参画の実現が、中野市発展のための手段であるかのように表現されている。

**委員** 基本的な考え方の方に区分けされているから、目的の中では一緒でも通ると思う。

**委員** 私の案では「男女共同参画社会の実現を目指します」と言い切った方がいいと思う。

**委員** 男女共同参画社会の実現を目指すというのは、非常に鋭角的でこの会の主旨にあっていると思う。

**事務局** 共同社会になるということは、最終的には社会が豊かになるということ。前は男女が共にいきいきと暮らせる中野市を目指します。そのいきいきと暮らせる中野市とはどういう中野市なのかというと、活力に満ちた都市だということで表現させていただいて、更に発展するには、今現在まだまだ共同社会になっていないということで、なることによって更に発展するという思いを込めた文章にしたのですが、鋭角的に、共同参画社会にすることだけ言えばいいのであれば、後段の部分を削っていただければと思います。

**委員** 資料61ページにあゆみが載っているが、中野市の場合、もう少し遡った時から、男女共同参画に向けて取り組んだり、願いを持って、今日があるので、そこら辺を織り込んでいただきたいと思いますと思うが、資料としては市の方で・・・。

委員 推進係ができたのが平成7年だから、恐らくデータないよね。

委員 前の計画、前々の計画にも載っていないので調べるのは難しい。

事務局 文章も保存期限があるので、あるかどうかわかりませんが、調べるだけ調べてみます。書けるものがあれば追記させていただきたいと思います。

委員 事務局できたのだから、そういう運動によってできてきた。わかれば活字として載せてほしい。

会長 事務局の方で調べられるのであれば調べてみてください。

委員 18ページの文章の最後のところが読みにくい。「より効果的な学習等の啓発事業の内容の充実が必要です。」整理してもらった方が市民の読む時にわかりやすい。

委員 19ページの(1)、文面はこれでいいと思いますが、十分啓発の効果がでていない。具体的な事業計画は、年度ごとにやりますので、その時に具体的にどうやって大勢のみなさんに参加させるのか考えながらと思う。あと、23ページに前回の計画の中で、ごみの出し方云々という表現があったが、削ったのは、ごみの出し方が十分に出されているという状況でそうなったのか。ちょっと質問。

事務局 前回の表現があまりにも長かったので、等という表現で縮めました。言葉の整理をさせていただきました。

委員 国際感覚の育成と交流の推進のところですが、現状と課題について、5年前の計画と照らし合わせて精査した文章にした方がよいと思う。

事務局 認識の問題ですけど、現状と課題については、今言われたように考えてみたいと思います。

委員 29ページ防災関係について、いい施策を新たに加えていただけてありがたいと思います。年度計画のところでは、ぜひ女性を防災会議の中に5人でも6人でも登用できるようにお願いしたい。

会長 文面等は問題ないので、実際に生かされるようお願いしたいということで。

委員 活字の中で位置づけてもらってよかった。

会長 防災会議についてお二人から、ご意見をいただきましたので、具体的な事業計画の時に声が活かされるようお願いしていきたくと思います。

委員 26ページについてですが、女性が長く働き続けるうえで障害になることに関するについて、アンケートの結果が単純な序列になっている。制度が不十分だから育児・介護が大変だと、もっと考察的な表現にしたらどうか。

委員 これはアンケートを、いろんな制度じゃなくて、長く働く制度が不十分で、それに対する回答だよ。

**事務局** 制度が不十分、家庭や職場の環境が整っていないことが伺えるって書いてあるの  
で。

**会長** 意識調査のグラフからわかることで、考察する立場としての見方というものが話題  
になっていたと思うのですが、働く女性にとって、家庭での役割が負担になって、また  
それを擁護する家庭や職場の環境が整っていないことが、制度が不十分っていう風に捉  
えればいいわけですね。

**事務局** という風に捉えているので、基本的にはこの柱で行こうと思います。

**委員** 38ページ、中野市の高齢者の状況のところの人口、47,400人は合併した時で、一年  
後46,000人、二年後45,000人、今年4月1日現在は45,431人だと思う。

**事務局** 住民基本台帳上の数字でやっているの、広報とかで貼りだしている数字とは違  
います。

**委員** 広報にでていたのは今年の4月1日現在 45,431人、65歳以上11,773人でいくと  
25.9%、去年は、25.7%なからいい数字だと思っていた。現状と課題の中では、今世紀  
半ばに3人に1人っていつているから、文章では良いが、表の中で、公に印刷するとなれ  
ばこの数字はおかしいと思う。

**事務局** 資料の出所が市民課と高齢者支援課なのですが、広報で出している数字は政策情  
報課の統計の方で出している。5年に1度国勢調査で見直した時に、住民基本台帳の数値  
の異動をプラスマイナスして、より実質に近い数字が広報で発表されている。市民課の  
数字はあくまで、住民基本台帳上に乗っている数字を出している。

**委員** マスコミで発表しているのとは違う。25.7%っていうのが頭に入っていたのが、国  
勢調査だから22年10月1日現在だけど、あわせておいた方がいい気がする。

**委員** でも資料の出所は、市民課と高齢者支援課ってことになっていけば、そこに問い合  
わせして、両方照らし合わせて出したって言う解釈に繋がっていくと思う。

**事務局** この計画では、前回住民基本台帳上の数字を使っているの、今回もその数字を  
載せている。

**会長** 期日が4月1日って書いてあるから、資料が高齢者支援課と市民課からでている数字  
って書いてあるので、了承してもらえるかなということですね。

**委員** 国勢調査の数字が出たばかりなのに、こんなに数字が違うのは。

**事務局** 国勢調査は、今実際に住んでいる人で、実際訪問してその数からプラスマイナス  
してるのです。基点が、これは住民基本台帳上に乗っている数字なので、たとえば、よ  
そに働きに行っている、学生で東京に行っているけど住所はこのまま置いてあるとか、  
今施設に入っているとか、全部含まれているのでやっぱりかなり差がでる。この65歳以

上も、住民基本台帳の方で年齢別に集計が出ている65歳以上の人の数字です。

**事務局** ここでは、高齢化の状況をお知らせすることですので、またどちらのふさわしいのか検討させていただいて、そちらの方にさせていただきたいと思います。

**委員** 女性の登用率は35%のままでいく。と確認されて、まだ到達しない。目標はあくまで高く持って、それに到達できる努力を、具体的な計画の中でやっていくのが必要だと思う。これで、答申にいくのですか。

**事務局** これで、いただいた意見を整理したものを、直して、皆さんに送りますので、ごらんいただきたいと思います。それを見て、答申案とさせていただきたいと思います。

**会長** 長時間にわたりありがとうございました。

**委員** 男女共生って言葉は、ほんとうに男女平等にと思うけど、日常生活では全然平等じゃない。なかなか改善されないことだと思います。

**委員** 文章全体が難しくて、なかなか頭に入ってこなくて、もう少し簡略化できないかなって思います。女性の意識とか、登用なんかの場合も、頑張った先輩たちのおかげで、この今の状態になったと言うことが感じられた。

**委員** 自分もかつて、男性に混じって、女性は私しかいない状態でやっていて、思うようにいなくて歯がゆい思いをした。そんな経験があるから、いろいろ実感も湧く。今、いろんな場面で女性の方がいいなと思ってしまうことが確実にあるので、共同参画していきなと思う。

**会長** これからも、いろいろな場面で、考えていきたいと思います。以上で本日の会議を終わります。ありがとうございました。

#### 4 その他

- ・今後の日程の説明

#### 5 閉 会